



発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

熊谷八坂神社祭礼行事「熊谷うちわ祭」を市指定無形民俗文化財に指定

熊谷市教育委員会は、「熊谷八坂神社祭礼行事」（熊谷うちわ祭）を平成24年3月30日付けで、熊谷市指定無形民俗文化財に指定しました。「熊谷八坂神社祭礼行事（うちわ祭）」は、7月20～22日の3日間において実施されており、毎年多くの観客者を集めています。祭礼行事の起源は、文禄年間に愛宕神社に合祀された八坂神社での例祭であります。現在においても、江戸中期から開始された祇園柱の設置を伴う祭礼行事、江戸中期から開始された神輿渡御を中心とした祭礼行事、明治後期から開始された山車・屋台の巡行行事、これら原型が現在も残されていることが、昨年実施した調査により明らかとなり、文化財指定に至りました。



「熊谷八坂神社祭礼行事」（熊谷うちわ祭）巡行祭

箱田氏館跡「弥生～古墳時代の方形周溝墓からヒトの歯と首飾りを検出」



1月～3月まで行った上之地区の発掘調査では、縄文時代後期（約3300年前）の集落・遺物包含層と古墳時代前期（約1700年前）と思われる方形周溝墓を確認しました。縄文時代は大量の土器や土偶などがみつかっています。方形周溝墓は時期が断定できませんが、お墓を区画する溝（周溝）から溝内土坑を検出し、覆土よりヒトの歯や首飾りが出土したことから、埋葬施設であることが判明しました。溝内土坑からの人骨・副葬品の共伴出土は県内で初見となる事例です。公開のため遺跡見学会を2月26日に実施し、約400名にご来訪いただきました。また、主要新聞社4社で記事になりました。



左上) 出土した首飾り(勾玉、管玉、ガラス玉で構成)
右下) 遺跡見学会(矢印箇所が溝内土坑)

ブログ『熊谷市文化財日記』開設1年

昨年4月11日より始めた、『熊谷市文化財日記』が開設1年を迎えました。普段あまり目にする事のない、日々の文化財関連業務について情報発信していこうと始めたブログですが、最近では1日150人超の方々に閲覧いただいております。1年間で更新回数226回、総閲覧者数は累計で40,000人を超えました。本年度は、「YouTube」を利用した動画も積極的に公開していこうと考えておりますので、今後ともよろしくお祈いします。

URL <http://kumagayasibunkazai.blog.so-net.ne.jp/>



市内遺跡発掘情報

西別府祭祀遺跡「河川跡から木簡を発見」

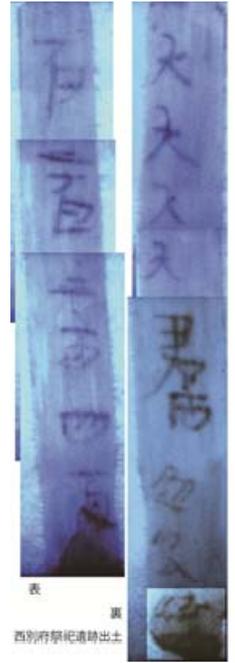
2月から3月かけて、西別府の湯殿神社裏の低地において、範囲内容確認調査を実施しました。

調査により、湯殿神社裏の河川（水路）跡の広がり（川幅）が確認でき、河川跡からは、土器と共に木簡（もっかん）などの木製品が出土しました。また、上層では平安時代後期の水田跡も検出され、当地の当時の様子が分かりました。

木簡は、現在の地表面から深さ約150cmの、河川跡の底付近で出土し、一方の面に「百 二百 三百 四百」、もう一方の面に「大大大 君（郡）丙（西）（以下5文字解読不明）」の記載があり、郡家（ぐうけ）の雑人（ぞうにん）などによる習書（しゅうしょ）（字の練習）と推定されました。この木簡の時期は、共に出土した土器から、この辺りにあった幡羅（はら）郡家（郡役所）の成立前段階にあたる7世紀後半から8世紀初頭と推定され、郡家における政治実態の背景を考える上で、非常に興味深い発見となりました。



出土した木簡



赤外線照射写真（合成）

平成 23 年度埋蔵文化財発掘の届出・照会文書の件数等について

平成 23 年度の各種開発等に伴う届出等の件数は、文化財保護法第 93 条に基づく発掘の届出が 165 件、照会文書が 127 件の計 292 件でした。前年度比約 10%の増加となり、昨年度に続き、過去最高の件数となりました。これらの届出・照会文書に対する試掘調査実施件数は 33 件であり、措置としては、本発掘調査 4 件、工事立会 148 件、慎重工事 140 件でした。なお、埋蔵文化財包蔵地の窓口照会件数は 473 件でした。今後とも、届出・照会文書の提出をはじめ、埋蔵文化財の保護にご協力をお願いいたします。



発掘現場の様子（樋の上遺跡：三ヶ尻）

連載 くまがやの古墳群

③ 三ヶ尻古墳群

三ヶ尻古墳群は、三ヶ尻地区の櫛挽（くしびき）台地上に所在する古墳時代後期の古墳群で、かつては 100 基以上の古墳が所在したと考えられますが、現在は 62 基が確認されているだけで、削平を受けた古墳や、消滅してしまった古墳も多数あります。

古墳は、観音山の北側の台地内側を中心に分布し、前方後円墳の 2 基以外は全て円墳です。台地を東西に貫く上越新幹線の建設などに伴い発掘調査が行われています。その際に調査された円墳である別称「やねや塚古墳」は、遺体を葬った石室、古墳の墳丘に葺かれた葺石（ふきいし）、墳丘に立てられた円筒埴輪などが当時のまま出土し、最も良く残存していた古墳でした。

石室からは遺体と共に埋められた副葬品である刀、耳環（じかん：耳飾り）、銅釧（どうくしろ：腕輪）、玉類など出土し、刀のつばには、タガネで溝を掘り、銀を埋めた装飾も見つかりました。また、埴輪には、円筒埴輪以外に、馬・人物・太刀などの形象埴輪も見られました。



石室は、現在、観音山の南西に移築復元され、石室や埴輪が立てられた様子が見られるようになっています。

写真：別称「やねや塚古墳」

（写真提供：（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団）

文化財センター通信 文化財防火デー

文化財防火デーは、昭和24年1月26日に法隆寺金堂から出火し、国宝の十二面壁画の大半が焼損してしまったことに始まる全国規模で行われる文化財の保護を目的とする消防運動で、今年で58回目をむかえました。本市においても毎年、市内の文化財建造物で消防訓練を実施しており、本年度は、重要文化財「平山家住宅」にて初期消火訓練などを実施しました。



熊谷消防署江南分署の指導のもと、地元住民で構成されている重文平山家住宅保存会、ものづくり大学技能工芸学部、熊谷市立吉岡中学校の生徒など、約80名の参加を得て、放水銃の放水訓練（写真）や消火器の使用訓練などを行いました。

指定文化財傍示標の設置

2月、県指定旧跡「吉田市右衛門の墓」（下奈良）、市指定有形民俗文化財「十王供養塔」（高柳）、市指定史跡「成田氏館跡」（上之：写真）の傍示標の設置を行いました。指定文化財の所在を表す傍示標は、老朽化しているものも見受けられることから、毎年度予算化し建て替えを行っています。また、新規に設置し、指定文化財のPRも併せて行っています。なお、「成田氏館跡」は、映画「のぼうの城」でも知られる成田氏が忍城主となる前に構えた館の所在を示す史跡です。文化財を巡るウォーキングなどの目印としてご利用ください。



江南行政センターに収蔵品展示ケースを設置

4月、江南行政センター1階ホールに、収蔵品展示ケースを設けました。ケース内には、埼玉県指定文化財の上中条：鎧塚古墳より出土した須恵器の高坏形器台（古墳時代後期：6世紀）と、千代：西原遺跡より出土した縄文土器の両耳壺形土器（縄文時代中期：約4,500年前）を展示しました。半年ごとに展示替えを行う予定です。江南行政センターへお越しの際は、ぜひご覧下さい。



フォーカス 熊谷市文化財保護審議会を開催

本市では、毎年2回の予定で、文化財の調査や指定など、文化財にかかわる案件について審議する会議を開催しており、現在、文化財各分野の専門家9名の委員によって構成されています。

平成24年3月23日に開催した平成23年度第2回の会議では、平成23年度下半期に行われた文化財保護事業にかかわる報告のほか、熊谷うちわ祭の指定にかかわる諮問、これからスタートする市登録文化財制度の登録候補となる有形文化財や天然記念物などの物件について審議しました。

文化財探訪 文殊寺仁王門—三人寄れば文殊の知恵

市内野原地内には、「野原の文殊さま」「知恵の文殊寺」として親しまれている日本三体文殊の一つとされる、文殊寺があります。仁王門（市指定有形文化財：昭和32年指定）は東側の県道より入り最初の朱塗り建物で、建築年代は江戸時代前期、中央間八尺の八脚門で、左右に仁王を配しています。

文化（1804-1818）年間の文人「十方庵敬順」は文殊寺を来訪し、『遊歴雑記』という書物に「仁王門四間ありて仁王尊も馴合て尤よし・・・是より真正面に本堂を見込事凡壺町余あるべし」と記しています。

文政11年（1828）には、火災により仁王門以外の七堂伽藍が焼失し、当時の様子を伝える建物は、仁王門と本尊だけとなっています。

毎年2月25日の大縁日は、受験シーズンと重なり、多くの参拝客で大変な賑わいを見せています。



文化財コラム 古代との遭遇・第9話

米作りの初め①—^{よこまくり}横間栗遺跡①—

熊谷の米作りは、いつ、どこで始まったのでしょうか。昭和62年、西別府の衛生センターの建設に先立って横間栗遺跡の発掘調査を行いました。その結果、13基の再葬墓(さいそうぼ)と71基の土坑(どこう)がみつき、弥生時代前期から中期にかけての墓域であることが分かりました。このうち1号再葬墓を含む最も古い一群の3基は、大型の壺が単体で土坑に立てられた状況で検出されました。それぞれが再葬墓群の南端に位置し、別府沼に最も面しています。再葬墓はその後、中期にかけてこの北に作られるようになっていきました。

1号再葬墓(上写真)は、径85×75cm、深さ65cmの規模をもつ土坑の東側に単独で大型の壺が直立して検出されました。大型壺の中を見ると、そこには長管骨の腓骨、脛骨、大腿骨、そして肋骨が立てられて入れられていました(下写真)。後で調べてもらったことですが、同じ部位の骨が無く一人分であることが確認されています。また骨の全体が華奢であることから女性人骨と考えられるとされています。骨に焼かれた形跡はありませんでした。他に打製石斧(だせいせきふ)も出土しており、群中では最も古い様相を示しています。末裔たちの米作りをじっと見つめ、その頼もしさに満足していたのかもしれませんが。



◇ 文化財イベントのご案内

	日時・期間	場所	費用	定員
平成24年度 星溪園 楽しいお茶会	第1土曜(11月は第2土曜)・ 第3日曜日 13時～16時 (7・8・12・1月を除く)	星溪園 (熊谷市鎌倉町32)	400円	先着50名 申込みは、当日星溪園にて (15時30分まで)
うつわ イロイロ展 —市内遺跡出土 木製品—	展示期間: 4月24日(火)～ 9月23日(日) 休館日:月曜・図書館休館日他 時間:午前9時から午後5時	熊谷市立図書館3階 郷土資料展示室 江南文化財センター 所蔵品コーナー	無料	

編集後記

本号につきましても、熊谷八坂神社祭礼行事(うちわ祭)の無形民俗文化財への指定、箱田氏館跡における県内初となる出土成果、西別府祭祀遺跡での木簡出土など、多岐にわたる様々な文化財の話題を提供することが出来ました。現在の文化財保護事業の中では、多くの方々に文化財への関心を持ってもらうことがますます重要になっており、文化財をいかに活用するかという積極的な議論が行われています。文化財を「学び」の場として提供する意義を再認識しながら、文化財を通じて多くの子供たちに夢や希望を与えられるよう、努力を続けてまいりたいと考えています。



発行：平成24年4月25日

熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係)

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

HP:「熊谷デジタルミュージアム」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

文化財の紹介、ブログ「熊谷市文化財日記」、「BUNKAZAI情報」カラー版などを豊富に掲載